

これまで4回にわたり、県内のいろいろな地域の季節ごとの植物を紹介してきましたが、今回は少し趣向を変えて、花が少ない冬季でも鮮やかな黄色い果実が楽しめるミカンのなかま（ミカン科ミカン属）の木を四つ紹介します。これらはすべて国や県の天然記念物に指定されている、とても貴重ですごい植物なのです。

それでは、ミカンのなかまの「植物さんぽ」をお楽しみください（撮影はすべて1月。年度は異なります）

ナツミカン（大日比の原樹）

ナツミカン原樹（長門市）

（原樹）ということでした。江戸時代に長門市仙崎大日比（青海島）に漂着した果実から、全国に広まり栽培されるようになりました。今では山口県の県花となり、県内のガードレールがこの果実の色で塗られるほど山口県を代表する植物となっています。ちなみに、この木は歴史的な価値が認められて、国の史跡にも指定されています。

コウライタチバナ（笠山の自生地）

コウライタチバナは、国内ではここ笠山だけでしか見られない超貴重なミカン科の植物です（世界でも韓国の済州島と笠山だけ）。タチバナより果実がやや大きいなどの違いがあり、萩市笠山の北側にある指定地以外にも数カ所で自生しています。ここは遊歩道が整備されているので、笠



ユズとナンテン（川上の自生地）



自生しています。特にこの指定地では斜面に数十本のユズがあり、秋から冬には黄色い実



タチバナ(青海島八王子山の自生北限地)

タチバナは、日本固有種の野生のミカンとして古くから親しまれていて、ひな飾りの「右近の橘(タチバナ左近の桜)」として聞いたことがある人もいるかもしれません。以前はこの地に多数自生し

の駐車場から、道がない急斜面の林を上り下りしないたとどりに着けないので、一人で行くとちよつと危険です。ちなみに、500円硬貨の裏「数字のある方」の小さな植物はタケとタチバナです。

ちなみに、500円硬貨の裏(数字のある方)の小さな植物はタケとタチバナです。

杉江喜寿（学芸課主任）
▽次回は21日です。



山口県立山口博物館
TEL083-922-0294
月曜休館（祝日の場合
は翌日）。最新情報は
ホームページで。

